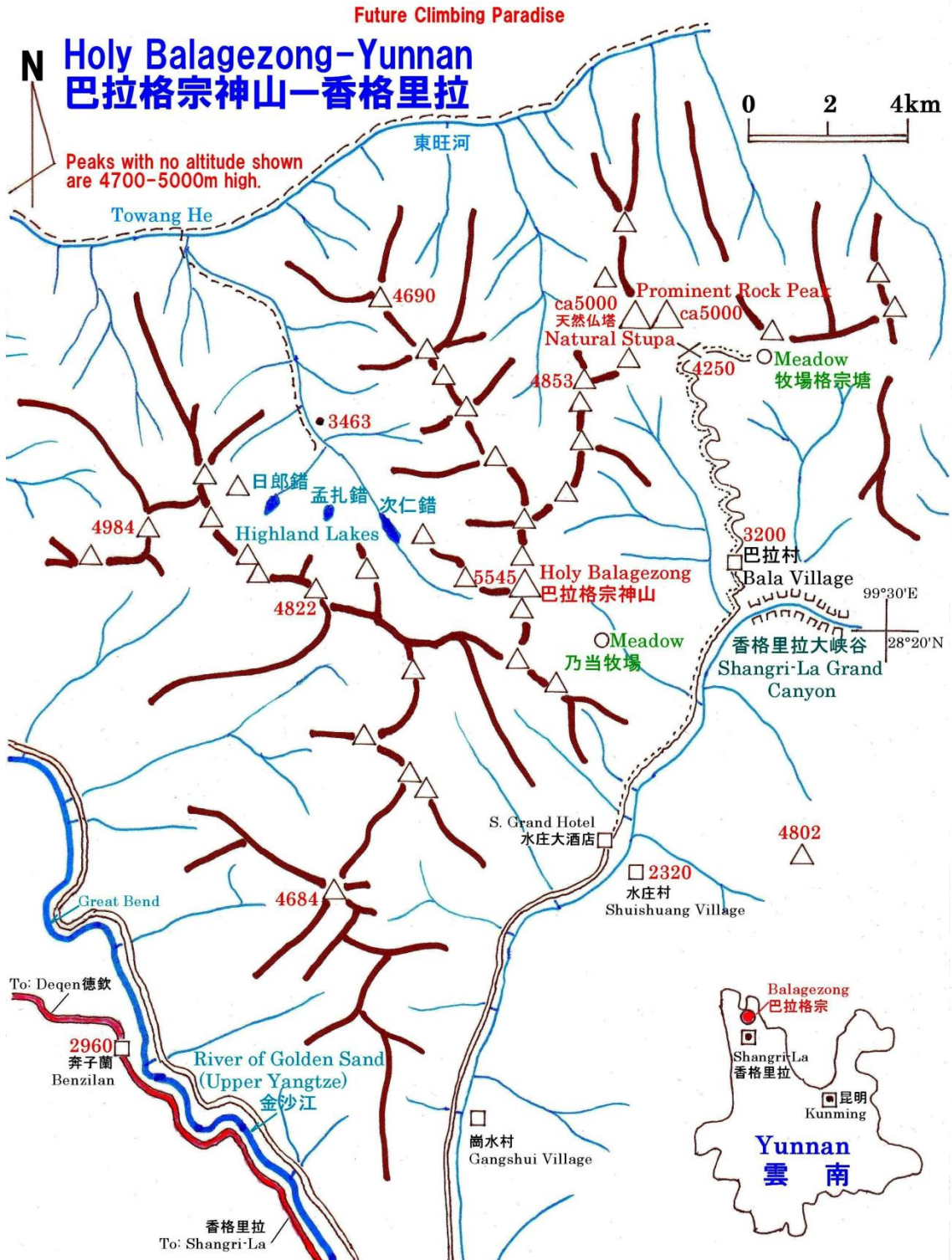


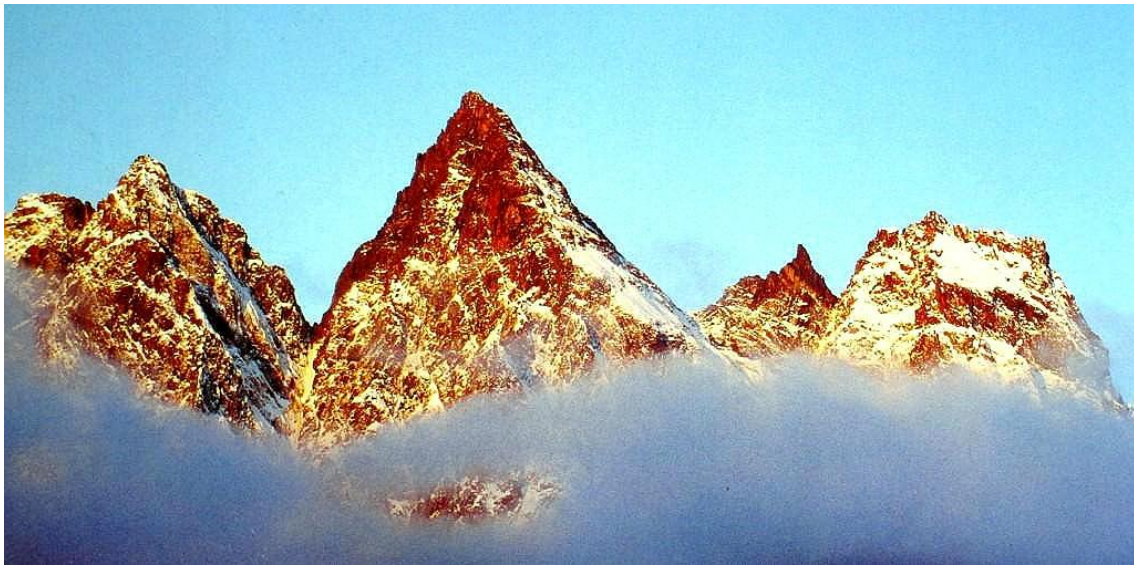
雲南省の樂園—香格里拉 (シャングリラ)

# 巴拉格宗神山 Holy Mountain Balagezong

将来のクライミング・パラダイス

中村 保





巴拉村付近から見える巴拉格宗神山 5545m（中央）の東面

### 追憶—ウィリアム・ビューラーさん

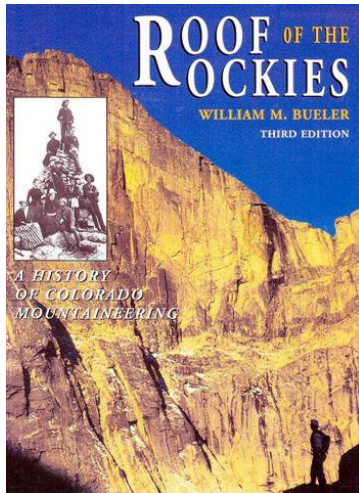
2004年1月にコロラド在住のウィリアム・ビューラーさんから、彼の著作、写真、地図を同封された一通の手紙が届いた。その本はロッキー山脈の”**Roof of the Rockies—A History of Colorado Mountaineering**”である。手紙と写真、地図は2003年秋の巴拉格宗 5,545mの偵察行である。ビューラーさんとの縁は *American Alpine Journal* と *Japanese Alpine News* である。この峻峰の存在は1993年に望見していたので知っており、気になっていた。私の知る限りこの山に登山目的で踏査に入ったのは彼が最初である。

ところが2004年2月の手紙でビューラーさんは脳腫瘍が急激に悪化し余命僅かで半身不随、手紙を書くのもままならないと伝えてきた。2ヶ月後の4月には奥様から主人が亡くなったこと、生前の親交に深謝するとの切々たる思いの悲しい手紙が届いた。原文は下記である。

Dear Mr. Nakamura,      10 April 2004

I am sad to inform you that my husband Bill (William M. Bueler) died on 6 April of the brain tumor (脳腫瘍) of which he had informed you. But we received your card with its information and beautiful mountain picture in fine for me to read it to him and for him to be pleasure that you had received and would be able to use his information. Thank you for your correspondence with Bill. His travels to the Sino Tibetan borderlands were the great adventures of his last ten years and he enjoyed those adventures to the full. He felt that you were a kindred spirit (気の合った同志) .                      Gratefully,

Lois Bheler (Mrs. William M. Bueler)



ビューラーさんのロッキーの本

ビューラーさんも中村も東竹林寺から望んだ巴拉格宗の西面

以来、巴拉格宗のことは頭から離れず、ビューラーさんの遺志を継いで何時かは訪れよう  
思いつつ東チベットへ傾斜したため、実現せず時が流れた。ビューラーさんの後この山塊  
に目を付けたのは、南極登山のエキスパートのオーストリア人、ダミアン・ギルデアさん、  
四川大学の劉勇博士で、劉さんは2回ほど訪れているが、登攀はしていない。そして、2016  
年5月ようやく私に機会が訪れた。

### 加速する辺境の観光開発

四川でも雲南でも観光資源となる辺境の山間部の開発が驚くべきスピードで進行している。  
そのために山間をトンネルと橋で繋ぐ広幅の舗装道路が建設され、行程の時間が大幅に短  
縮されている。旧来の地場産業を観光産業に転換するのが政府の政策で、中国版地方創生  
のようだ。そんな光景は至るところで見られる。事実、中国各地から観光客が大挙して来  
ている。四川省の成都から一日で行ける達古氷河景勝地も同様に、小氷河を見るために  
4800mの高所までロープウェイが出来ている。紅葉のシーズンには台湾からの観光客が多  
いという。

香格里拉から梅里雪山の景勝地の徳欽（探検史の舞台）まで丸一日かかったが、今では3  
時間半の快適なドライブで行ける。事前の情報不足だった。巴拉格宗の探査を目論んでき  
たが、既に観光開発が進んでいた。13年前にビューラーさんは偵察に8日間のトレッキ  
ングをしたが、観光道路が整備され今では1日でアクセスできる。観光の起点となる水庄村  
（2320m）には5ツ星と4ツ星のホテルが出来ている。その先は観光用のシャトルバス以  
外は入れない。巴拉格宗の観光開発は香格里拉県政府の重点プロジェクトで、既に8億  
元を投資している。

観光・探査の目玉は：－

1. 聖山巴拉格宗 5545mと香巴拉仏塔（天然仏塔 ca 5000m）と周辺の顕著な石灰岩の岩峰群（4700-5000m）。全て未踏峰である。アルパイン・メドー（牧場）や高山湖が点在し岩峰群とのコントラストが素晴らしい。
2. 香格里大峡谷(Shangri-La Grand Canyon)。2.5 kmに亘り観光用の栈道がつくられ、ゴムボートによる川下りのラフティングが楽しめる。
3. 巴拉村（Bala Village 3200m）。300年ほど前に、戦乱を嫌う有力者の一族が四川省の巴塘から桃源郷を探して住みついた「隠れ里」、カンバの習俗、方言が残っている。巴拉格宗の名称は一族の出身地、巴塘に由来する。

## 強まる規制—開発のパラドックス

観光開発が進む一方でチベット族と外国人への統制が厳しさを増している。東チベット、青海、四川、雲南の辺境を旅していると「新村」のボードをよく目にする。奥地に住むチベット族や他の少数民族を幹線道路に近いところに移住させ管理する政策である。奥地は過疎化し、辺境は遠ざかりつつある。開発のパラドックスと言うべきか。

### チベット族への締付

ガイドのチベット族陳さんがぼやいた。昨年インドのダラムサラ（チベット亡命政権）出かけたが、帰ってきたらパスポートを取上げられた。せっかく共産黨員になったのに、もう海外には出かけられないと不平を言う。二年前だがラサのチベット族ガイドのアワンもインド・ネパールに行ったため、パスポート発給してもらえない。

[註記] **ダラムサラ**には、6000人以上のチベット人が生活をし、カンチェン・キシオン(雪有る幸福の谷)という場所に亡命政権の官庁街がある。宗教・文化省、内務省、大蔵省、厚生省、文部省、情報国際関係省(外務省)、公安省など7つの省庁が並んでいる。...

習近平政権になり国内の締付が厳しくなり、チベット族の監視統制が一層強くなっている。四川省でも同じである。丹巴県ではチベット族がラサに行くには県政府の紹介状がいると言う。今まででなかったことである。なお漢民族は自由にチベットに行き帰り滞在することはできる。

### 外国人への規制

外国人旅行者に対する規制も強まっている。2-3年前までは、外国人が雲南省と四川省から陸路チベット自治区に入ることはできたが、現在は不可能である。雲南チベット公路をメコン川沿いに辿って徳欽からチベット自治区の芒康県塩井へは行けないし、四川の巴塘から川蔵公路を辿って金沙江（揚子江上流）を渡りチベット自治区の芒康には行けない。19世紀、チベットと清朝政府の緊張状態に逆戻りした感がある。ことほど左様に外国人のチベット自治区東部（東チベット）への入域は難しくなっている。往時の禁断の土地、昌都地区でも外国人は入れたが、今は立ち入りが禁止されている。監視の目が緩やかだった梅里雪山の西側、怒江沿い察瓦龍にも入れなくなった。

長年小生の未開放地域への入域をアレンジしてくれた西藏自治区競技体育中心の書記ドウさん（元チベット登山協会幹部、漢民族）によると、未開放地域の許可手続きは一層面倒で厳格になっていると言う。

## 旅の行程—雨季に入る

メンバーはいつもの老年隊、中村保（81）、永井剛（83）の2人、期間は5月14日—6月3日の3週間。成都を起点にして、前半は雲南省の香格里拉県（旧名：中甸）の巴拉格宗偵察、後半は四川省の達古氷河景勝地とその周辺を計画した。しかし、四川では天気恵まれず四姑娘山で晴れただけで見るべき成果はなかったため、ここでは主に雲南の巴拉格宗について紹介する。成都へは全日空の直行便があり便利である。

5月16日：曇一雨、空模様は雨季に入りつつあることを示唆している。「晴れ男 Man of Blue Sky」の幸運を願って早朝のフライトで成都を発ち香格里拉空港（3230m、09：00、8℃）に降り立った。馴染みの陸偉東さんと8年ぶりの徳欽のガイド・陳小紅（チベット名：格茸）の出迎えを受け旅は始まった。直ぐ雲南チベット公路の新道に行く。旧道とは景観が違ふ。金沙江沿いの山の斜面をトンネルと橋で最短距離を繋ぐ。崗曲（支流）とも分岐点に巴拉格宗への大きな案内板が置かれている。昼頃、観光の基地となっている四つ星ホテル、水庄大酒店 2320mに着く。

ここから先はシャトルバスである。午後、巴拉村 3200mまで登り巴拉村蔵式大酒店に宿をとる。晴れていれば、ここから巴拉格宗 5545mの東面が見える。大方の観光客は巴拉村から引き返すが、我々は新しい道路を4250mの天然仏塔（香巴拉仏塔）を見上げる峠まで行ったが雨と霧で視界ゼロ、巴拉村に戻る。金沙江分岐点から水庄村まで17km、水庄村から巴拉村まで17km、巴拉村から天然仏塔の峠まで23kmの観光用の車道ができています。



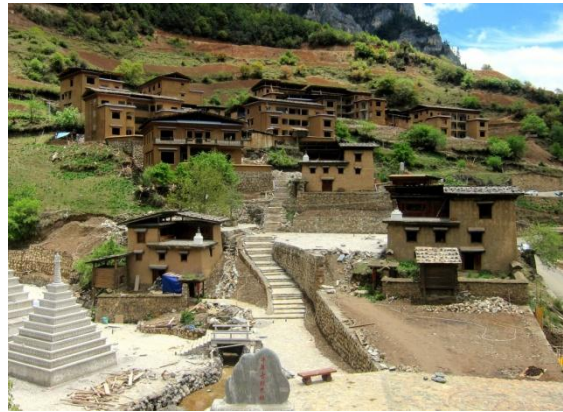
金沙江と崗曲の分岐点



雲南チベット公路—金沙江沿いの新道



水庄大酒店 四つ星ホテル 2320m



巴拉村 3200m、新築14戸

5月17日：雨、巴拉村（3200m、09：00、8℃）、天候改善の兆しなし。時間を無駄にしないため徳欽に行く。白芒山峠 4280m 付近は雪。

5月18日：雨、徳欽（3200m、06：30、6℃）。梅里雪山は雲の中。金沙江展望台に立ち寄り、奔子蘭 2060m で昼食、水庄大酒店に戻った。午後、雨が上がったので、香格里拉大峡谷の観光に行く。



香格里拉大峡谷（1）



香格里拉大峡谷（2）ラフティング

## 将来のクライミング・パラダイス

5月19日：曇時々晴、水庄村（2320m、07：00、13℃）。1週間続いた梅雨空に晴れ間が見えてきた。チャンスである。シャトルバスをチャーターして巴拉村を経て天然仏塔と峠 4250m に向う。巴拉村の西に谷を隔てて主峰巴拉格宗 5545m の東面がひと際大きく迫る。ジグザグの車道を登るにしたがい岩峰群が次々に現れ、息を呑む。山塊全体の一部ではあろうが怪異な石灰岩の岩峰が天然仏塔に連なる。仏塔の東には異形な岩峰が天を突いて聳える。すべてが手つかずの未踏峰である。将来のクライミング・パラダイスである。

聖山巴格拉宗山塊—未踏の岩峰群 4700—5545m フォト・ギャラリー





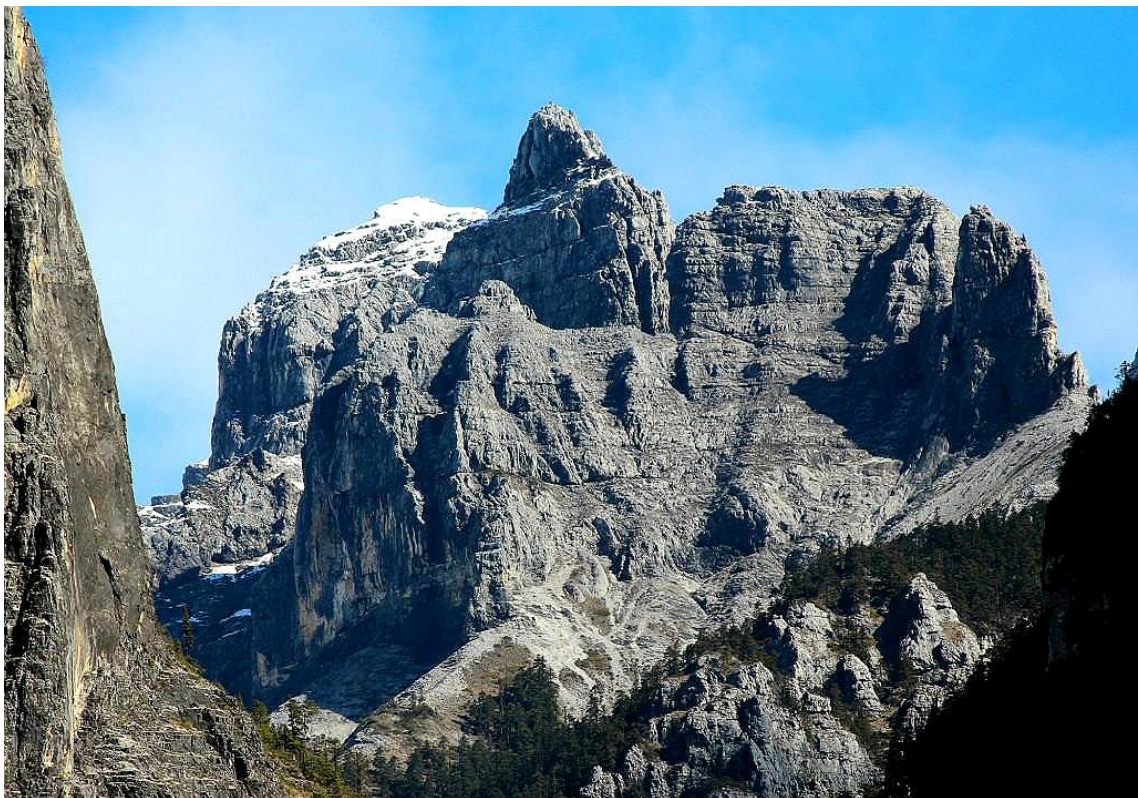
天然仏塔（香巴拉仏塔）ca 5000m 南面



天然仏塔の東隣り、 顕著な石灰岩の岩峰 ca 5000m



巴拉村から望む巴拉格宗神山 5545m (左) 東面



巴拉村から北に望むピーク、左奥は天然仏塔、手前が ca 4800m の石灰岩の岩塔

## 四川省へ—大川健三さん

5月20日：晴、水庄村（2320m、06：45、15℃）。「晴れ男」の面目を施して帰路につく。金沙江沿いに下り玉龍雪山麓の世界遺産・麗江に一泊し、翌日昆明で出版社と打合せをして5月22日の成都に戻った。

四川大地探検の張継躍さんに同行してもらい、達古氷河景勝地に行った。三奥雪山の踏査も計画したが、果せず、収穫は無かった。帰路、四姑娘山に立ち寄り丹巴在住の写真家・大川健三さんの「自然保護啓蒙館」を訪ねた。四川省は四姑娘山をシャモニーのような山岳観光のメッカにしようと力を注いでいる。悪天候続きだったが、半日だけ晴れてくれ有終の美を飾ることができた。成都では張継躍さん、四川登山戸外運動協会（最近名称変更）の劉鋒副事務局長、四川大学の劉勇博士、松山峰子さんと情報交換を兼ねて有意義なひと時を過ごした。



大川健三さんの「自然保護啓蒙館」(四姑娘山)



大川健三さん一家、丹巴にて



四姑娘山主峰 6250m 南面



巴郎山峠近くから南に望む 5000m ピーク